



# 岳心流 つるが岳心会

漢詩から和歌、俳句、詩文、  
歌謡曲まで多彩に吟詠

岳心流つるが岳心会は、約40年の歴史を持つ詩吟愛好家によるサークルです。詩吟にはいくつかの流派があり、つるが岳心会は、その中の岳心流に属します。岳心流は歴史と伝統を持つ流派です。詩吟は一般的に漢詩の吟詠を指しますが、岳心流はこのほかに和歌、俳句、



会長 瀬戸 款心さん

島崎藤村・北原白秋・石川啄木などの新体詩も吟詠するのが特色です。独特の節やメロディをつけて詠うことで、漢詩や和歌が文字で詠むのとはひと味違った趣を感じさせてくれます。最近

## 和歌や俳句を詠って健康づくりにも

40周年を記念した大会を  
来年10月に開催予定

慕った有志が集まり、会を結成しました」と話すのは、つるが岳心会の会長を務める瀬戸款心さん。発足当時は約50名でしたが、現在は約120名のメンバーが名を連ねています。

つるが岳心会では、年間を通じてさまざまな行事を開催しています。年はじめの初吟会、春と夏にはグループ交流発表会、秋には毎年恒例の定期発表会、市民文化祭参加、一年の詠い納めの納吟会、敦賀ゆかりの大谷吉継、武



平成27年10月11日に開催された定期吟詠発表会

では歌謡曲を取り入れた吟詠「歌謡吟詠」も人気があり、比較的自由なスタイルで詠うことができます。会が発足したのは、昭和52年のこと。「きっかけは公民館で行われた詩吟の自主活動グループ講座です。3ヵ月限定の講座でしたが、講師の先生が熱心な方だったので、先生を

田耕雲齋の辞世の詩を吟詠する墓前祭など、発表の場もたくさんあります。他県の会の発表会への参加や明治神宮への詩吟の奉納など、県を超えての活動も実施。来年10月には40周年記念大会も予定しています。他県の岳心会のメンバーも招いて約300名が参加する大規模な催しとなるため、今から準備を進めています。今後の目標は、詩吟の魅力をもっと多くの人に伝えていくこと。瀬戸会長は「詩吟をはじめようになつて、人前で喋るのが苦でなくなりました。私は下戸なこともあり、宴席での隠し芸にはいつも悩まされていましたが、詩

吟を覚えてからは親族の結婚披露宴で披露するなど、自ら人前に立つことも増えました」と周囲との交流が深まったと話します。さらに「吟詠は腹式呼吸で発声するので、健康づくりにも役立ちます。人はそれぞれ声の高さが違いますが、音を合わせながら一つの詩を詠うのも一体感が感じられて面白いですね」とも。詩吟の醍醐味を生き生きと話す瀬戸会長の笑顔が印象的でした。



ステージで声を合わせる合同練習会

〈本件に関するお問い合わせ先〉  
●岳心流つるが岳心会  
TEL(0770)2316563